

1 主題名 みんなの場所を C (11) 規則の尊重

2 ねらいと教材

- (1) ねらい 約束や社会のきまりの意義を考え、守っていこうとする態度を育てる。
- (2) 教材名 「日曜日のバーベキュー」(東京書籍 「新訂新しいどうとく4」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、小学校学習指導要領の第3学年及び第4学年の内容項目Cの「主として集団や社会との関わりに関すること」の(11)「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。」を深めることをねらいとしたものである。これは低学年の内容項目「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。」を受け、さらに高学年の内容項目C(12)、遵法精神や公德心へとつながっていくものである。中学年になると、学級・学校での生活に慣れ、自分の行動に自信をもったところから外への活動範囲が広がり、公共の場や公共物を児童だけで使う機会も増える。しかし、自分の都合を優先したり、欲求がおさえられなかったりして、きまりを守れない姿も見受けられる。また、大人に叱られるからという理由できまりを守ろうとする児童もいる。そこで、自分も含めみんなが気持ちよく生活するために約束や社会のきまりがあることやきまりの意義について理解し、自らルールを守ろうとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態と教師の願い (調査日 令和4年7月20日 調査人数10名)

みんなの約束やきまりを守って生活できていますか。	
・はい10	・いいえ0
みんなの約束やきまりをやぶってしまったことはありますか。	
・はい1 (ゲームをしてはいけない時間にしてしまった)	
・いいえ8	・わからない1
なぜ、みんなで生活する中で約束やきまりがあるのでしょうか。	
・先生や大人が心配するから3	・みんなが困るから2
・悪い学校になってしまうから2	・けがをしないように1
・そう習ったから1	・無回答1

本学級は3年生7名、4年生3名の複式学級であり、今年度は4年生の学習内容を10名で学んでいる。その中で4年生の教材を使いながらも3年生の人数の方が多いことや、特別支援学級在籍の児童が4名いることから、語彙の意味を細かく確認したり、場面のイメージが浮かびやすいようイラストや教材のデジタルコンテンツを使ったりして学習を行っている。

アンケートでは、「約束やきまりを守って生活しているか」という質問に対して、児童全員が「はい」と答えたことから「約束やきまりは守るもの」という意識で生活していることが分かる。また、「約束やきまりを破ってしまったことはあるか」という質問には、ほとんどの児童が「いいえ」と答えている。しかし、生活の様子を見てみると、約束を無視してしまいトラブルになったり、けがをしまったりする児童も見受けられる。これらのことから、表面上は約束を守っているつもりでも、自分勝手に振る舞ってしまったり、友達の意見に流されてしまったりする児童も多く、児童の意識と事実とに差がある。また、約束を守る理由として「大人が心配するから」「そう習ったから」と回答した児童もおり、なぜ約束やきまりを守らなければならないのか自分事として理解できている児童は少ない。この教材では「約束は守るもの」という意識から「なぜ守らなければいけないのか」「何のために約束があるのか」ということの本質を考え、理解を深めていきたい。さらに、それぞれの登場人物の立場から多面的・多角的に捉え「みんなが安心して過ごせる方法」について意見交換を行うことで「他人に言われたから」ではなく、自主的に約束やきまりを守ろうとする態度を育てたい。

(3) 教材について

本教材は、児童の経験から想起しやすく、約束やきまりの意義を考えるきっかけとなる物語となっている。川原でバーベキューをした帰りに、主人公はごみ捨て場ではない場所にごみを捨てたことに気付いたが、そのままにして帰る。帰宅後、自転車のかごに入れられたごみを片付けるお母さんを見ながら、自分がしたことを振り返るという内容である。立場の違いから「きまりを守る」という気持ちの強弱があることに気づき、主人公が自分の行動に対してどのような思いをもつのか児童自身に考えをもたせたい。それらを意見交換することで、多面的・多面的な見方や考え方が存在することに気づき、約束やきまりが学校生活だけでなく、社会に生きるみんなのためにあることを理解させ、主体的に約束を守ろうとする態度を育てたい。

(4) 指導観

導入では、事前にとったアンケートの結果を提示し、約束やきまりについて問題意識をもてるようにする。また、学びが「ごみを捨てること」に終始しないよう生活の場面での約束やきまりを想起できるようにする。展開では、主人公の傍観者としての立場と当事者としての立場の両面からの考えを整理することで、比較しやすくする。さらに友達との意見交換から、自分とは違う考えを柔軟に受け止めることで多様な考えにふれられるようにする。終末では、「約束やきまりは、なぜあるの?」に立ち返り自分の考えを振り返ったり、校外学習での約束やきまりを自ら考えたりすることを通して、学校生活だけでなく社会の中で主体的に約束やきまりを守ろうとする態度を育てたい。

4 本時の指導

(1) 準備・資料 教科書、ワークシート、場面絵、TV、PC

(2) 展開

過程	主な学習活動と発問 (◎は中心発問)	予想される児童の反応	支援と評価の観点 ☆UDの視点に基づく支援 ◎ICTを活用した支援
導入	<p>1 課題を提示し、約束やきまりについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 約束やきまりは、なぜあるの? </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが困るから。 ・けがをしないように。 ・先生や親がきまりを言っているから。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎事前アンケート結果をテレビ画面に提示し、約束やきまりについての問題意識を高める。 ・学校、駅、町中でのきまりについて意見を交換することで、ごみ捨て以外の約束やきまりへ意識を広げておく。
展開	<p>2 「日曜日のバーベキュー」を聞いて、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何回目かのごみの始末をしていたお母さんを見て、ぼくは何を思っていたでしょう。 <p>◎ 「ここはごみすて場ではありません!」という立て札を見たのに、「ぼく」がごみをそのままにしてしまったのは、どんな気持ちからでしょう。</p> <p>○ 川原に捨ててきたごみを思い浮かべながら、ぼくはどんなことを考えたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一体だれが捨ててるんだろう。 ・お母さん、かわいそう。 ・ほかの人も捨ててるからいいじゃん。 ・みきおも何も言わないし、いいと思ってる。 ・みんなが待ってるし早く帰りたい。 ・ごみを持ち帰りたくない。 ・ぼくが捨てたごみも誰かが持ち帰るんだ…。 ・川の環境が悪くなっちゃうんだ…。 ・持ち帰ればよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎デジタルコンテンツを使って、朗読しているところが視覚的にもわかるようにする。(p77の3行目まで聞く。) ☆場面絵を提示することで物語の流れを理解しやすくする。 ・始めの場面では、お母さんの姿を見ていたときの主人公の気持ちを傍観者としての立場から考えることで、中心発問での考えと比較検討できるようにする。 ・考えを書くのが難しい児童には「ごみ捨て場じゃない所にごみを捨てていいか?」と具体的な質問から、考えを広げられるよう個別に支援する。 ・意見交換から、約束や社会のきまりについて一つの理由でなく多面的・多角的に見て考えられることに気付けるようにする。 ☆物語を最後まで聞き、板書から傍観者と当事者の立場で感じたことを比較できるようにする。 ・「仕方なかった」で終始してしまう場合は、ごみを片付ける人やきまりを守ってる人の気持ち、SDGs 14「海の豊かさを守ろう」のプラスチックごみを取りあげ、考えられるようにする。
終末	<p>3 学習を振り返り、これからの生活について考える。</p> <p>○ 「校外学習で行く施設で、大切にしたいことはどんな約束ですか。」</p> <p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出したごみは持ち帰る。 ・科学館ではきちんと順番を守ってならぶ。 ・バスではシートベルトをつける。走っているときは立たない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で学んだことをヒントにして、自分の考えを深められるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>【評価】約束やきまりの意義から、自分の行動を振り返り考えることができる。(発言・ワークシート)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の下見に行った際、きちんと並んで待っている幼稚園生を見た経験を話し、自分たちもできるという自信をもてるようにする。